

令和四年度『第七十四回 卒業証書授与式』式辞

式辞

春の日差しにあたたかさを感じる今日の良き日に、晴れの卒業証書授与式を迎えられた第七十四期生の皆さん、卒業おめでとうございます。

そして、ご参列をいただきました保護者の皆さま、卒業証書を受け取るお子さまの立派に成長された姿を見られ、さぞ嬉しく思われていることと存じます。十五年間の子どもたちへの精一杯の愛情が、ここに身を結び、義務教育を修了されたこと、心よりお祝い申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染拡大防止の対策が始まって三年が経過し、今回の卒業式では、感染対策は徹底しながらも、保護者の皆様の人数制限はなくなり、歌を歌うことや吹奏楽部の演奏が可能となるなど、制限が緩和されました。思い起こせば三年前、卒業生の皆さんが小学校の卒業を間近にした二月二十七日に大阪市の方針が示され、二日後の二月二十九日から約三ヶ月間の学校休業となり、中学校の入学式も臨時休業の中で行われることとなりました。中学校入学後も臨時休業が約二ヶ月続き、六月一日より『分散登校』という形で一学期がスタートし、二週間後の六月一五日より『通常授業』が再開されました。一年生の一学期に予定していた『自然体験学習』は、次年度に延期となり、部活動の対外試合は七月から、文化祭での吹奏楽部の演奏は体育館では行えず体育大会で披露するというような状況が続きました。皆さんが一・二年生の時の『水泳大会』と『合唱コンクール』は、残念ながら実施できませんでしたが、学年の先生方の強い思いもあり、その他の取組・行事などは、様々な制限がある中ではありましたが、知恵と工夫により、できる限り縮小することなく実施できたと思っています。皆さんの中学校の三年間は、コロナと戦い・コロナと共に歩んできた中学校生活であったように思います。このような状況にありながら、皆さんの先輩もそうであったように、真冬にも関わらず半そで姿で元気に登校する生徒があり、真夏の暑い日にも関わらず、昼休みに思いっきりボール遊びをして動き回っている多くの生徒の姿を見ていると、コロナに負けない強いパワーと生命力を感じました。

コロナの影響を受けて、過去2年間の『修学旅行』は、十月実施となっていました、皆さんの学年は予定通りの五月、春の穏やかな季節の中で中国・四国地方へ出発することができました。先日、学校のホームページで当時の様子を見てみると、『ラフティング』で大はしゃぎしている様子や、『夜のレクリエーション』での漫才やゲームで大笑いしている顔、プロ顔負けのマジックを見て拍手喝さいの場面、そして『いちご狩り』で口いっぱい頬張っているかわいい姿などの写真を見て、懐かしく思い出していました。一・二年生の時に行うことのできなかった『水泳大会』『合唱コンクール』も三年生では開催することができ、一・二年生の時の分まで取り返すかのように楽しんでいたように感じました。また、先日行われた学年レクリエーション大会『グッバイ・レク』を見て、みんなで協力して、そして一生懸命に取り組むことが、こんなにも楽しくて・面白くて・感動するものになるということを改めて感じたところです。『グッバイ・レク』の閉会式で印象的だったことは、表彰式で第四位のクラスに『まあ、こんな日もあるで賞』という表彰状が学年の先生方から贈られ、みんなで笑って終わった姿を見て、『優しさ溢れる学校』をめざしている北稜中学校の見本となる学年であったと感じました。

さて、三日前の三月十一日は、十二年前に一万八千人を超える犠牲者が出た『東日本大震災』が発生した日です。約一月前には、トルコ南部で大地震が発生し、五万人を超える犠牲者が出ています。犠牲となられた方々への「哀悼の意」を表します。地震大国の日本では、近い将来、高い確率で『南海トラフ巨大地震』が発生すると言われています。防災・減災のことを学ぶ中で、皆さんのような若い力が、いま生活をしている地域社会にとって必要な人材であることは、『阪神淡路大震災』や『東日本大震災』の教訓からも分かっていることです。自分自身の命を守ること、家族・友だち・地域の方々と助け合って、お互いの命を守っていくことが、地域社会で生きていくうえで最も大切なことであると考えます。

この三年間、皆さんは、いのちの大切さについて学んできました。世界では、多くの人が傷つき、いのちを脅かされているという報道がこの一年毎日のように流れています。戦争は、人間の生存する権利さえも奪うことから「最大の人権侵害である」と言われています。皆さんは、今まで中学校という小さな社会の中で生活をしてきましたが、義務教育を終えれば、さらに大きな社会で生きていくことになります。これからは、一般社会の一員として、皆さんのような優しい心を持った人が、それぞれの国籍や年齢・性別、文化や言語、障がいの有無など、互いの違いを認め合いながら、それぞれの人の持つ良さや能力が十分に発揮できる社会を創ってほしいと切に願っています。

昨日、できあがったばかりの『卒業文集』が配付されました。素敵な文集で、中学校での学校行事・部活動などの楽しい思いや、友人への感謝の言葉などがたくさん書かれていました。その中には、学校に行きづらかった自分に親身になって声をかけてくれた先生がいたことや、そして優しく受け入れてくれた仲間がいたことに感謝し、本当に嬉しかったという内容のものもありました。また、三年生の途中で海外から転入してきた生徒がいたため、文集の原稿は英語で書いてもらい、同じクラスの友人が日本語に訳し文字にして、それを見本に慣れない日本語で書き上げた、という一文もありました。北稜中学校の生徒の優しさがいっぱい詰まった文集ですので、ぜひ読んで、大切にしてほしいと思います。

結びに、今日の良き日を迎えるまで、様々な心配をかけながらも、立派に育ててくれた家族の方々への感謝の気持ちを忘れず、また、たくさんの笑顔や思い出をくれた友だちや母校に思いを馳せながら、四月から始まる新しい未来に向かって歩んでくれることを教職員一同、心より願っています。

令和五年三月十一四日

大阪市立北稜中学校長 山咲進一